令和５年度第２回奈良市学校部活動のあり方検討懇話会の意見等の概要	
開催日時	令和５年 12 月 26 日（火）午後１時から午後３時まで
開催場所	奈良市役所北棟２階 202 会議室
意見を求める内容等	・アンケート及びヒアリングの結果について ・奈良市の目指す方向性について
参加者	参加者 10 名、事務局 16 名
開催形態	公開（傍聴人０人）
担当課	教育部学校教育課 市民部スポーツ振興課 市民部文化振興課

意見等の内容の取り纏め

事務局より、第 1 回懇話会概要とそれ以降の動きについて説明した後、参加者に意見を求めた。

≪意見を求めた内容及びそれらに対する意見等≫

〇アンケート及びヒアリングの結果について

〈参加者からの意見〉

・保護者の立場からすると、この結果は生の声に近いと感じる。
・小中学校の保護者としては、送迎の問題が懸念材料であることは確かである。
・費用負担についても、道具等の費用が含まれているのかどうかの不安もある
・部活動顧問の立場としては、「資料 7」の「心配すること」にあるように、外部指導者との情報共有に課題があると思われる。
・市立中学校の吹奏楽部においては、約 3 割の学校で外部指導者が指揮を務めているが、学校側は外部指導者との情報共有等に課題があると感じていることに加えて、指導者の資質向上を図っていくことは必須と考える。
・教職員の立場から見ると、部活動にやりがいを感じている教員は少数であると感じている。
・教員の部活動への関わりについて、平日は指導するが、休日は地域で行うのであれば中途半端であり、地域移行をするなら平日も含めた完全移行が望ましい。土日にトラブルが起きると対応しづらく、万一緊急であれば結局土日も関わることになる。
・完全に地域へ移行した後、関わりたい教員については、関われるような仕組みを作っていけば良いのではないか。
・奈良市中体連では、地域クラブの大会参加を認めている。これは奈良市独自でなく、国・県

の動きを受けての対応である。
・費用負担について、文化のみ、スポーツのみ、両方の３パターンで検証すると、課題がより明確になるのではないか。
・費用負担については、競技や種類によっても負担が違うと考えられるが、保護者間でも受け取り方に違いがあり、道具等に掛かる費用の全てを込みで考えている人もいれば、道具等の費用を含まない月謝と捉えている人もいる。
・小学生保護者の回答より、現在行っている活動への費用負担が一定以上の額であることから、子どもたちの夢をかなえるために地域の枠を超えて、子どもが希望する活動をさせておられるのではないか。
・場合によっては、月謝３万円程度のスポーツ活動をされる家庭もあると聞くが、保護者の中では、学校の部活動で活動させると費用が非常に安くつくという意識があるのではないか。
・自身が野球部の顧問を務めていた頃、小学校では少年野球をせずに、中学校で野球部に所属し、野球を始める子たちが多くいた。保護者の感覚としては、中学校の部活動は教員が面倒を見てくれ、費用負担も少ないからという部分がある。
・教員の「部活動にやりがいを感じる」割合や「地域移行後も活動に関わりたい」と回答する教員の割合を見ると、少ないと感じる。
・学校外での子どもとの関わりを大切にする教員も存在するので、そういった教員が今後も関われる仕組みの構築が必要ではないか。
・土日のみが地域クラブとなることに不安を示す教員が多く、子どもへの影響やトラブル対応、大会引率や外部指導者とのすり合わせは、現実的に出来るものかと考えている。
・東部の学校では、学校から部活動がなくなったら、子どもは活動できなくなるという保護者の声もある。
・現在、自身の地域で活動している地域クラブにおける個人の費用負担は２、３千円で、学校開放やコミュニティ会館、公民館の使用や消耗品費用として徴収している。
・地域クラブは儲けを出すのではなく、地域活動の一環として行うので、現状指導者には多少の謝金はあるが、ほぼボランティアとして活動している。
・地域移行に期待することについて、専門的な指導が受けられるとの回答が多いが、状況にもよるが学校においても専門的な指導は行われているのではないか。
・保護者は、地域移行後の活動場所は学校ではないというイメージがあるのではないか。
・学校施設も活用していくのであれば、そういった啓発も必要であろう。
・自身は地域で音楽活動をしており、外部指導者として、ある市立中学校の吹奏楽部を指導した。外部指導者が指導して良かった点として、顧問の先生とは違った立場からしっかり伝えることができ、子どもたちの技術力の向上につながった。
・近隣に地域クラブチームがなくても地域の専門家がそのフィールドに行けばいいし、やる気がある地域の指導者を学校に派遣し、その人材を活かすことを皮切りに地域に移行していくのがいいのではないか。
・学校部活動以外の活動へのニーズをとらえることや、シーズン制への意識を調査したい。
・指導者から専門的な指導を受けたいというニーズもあれば、自主的に活動したいというニーズもあると思うので、どのような指導を受けたいのかについても調査しても良い。

・活動の頻度についても調査しておく必要があるのではないか。
・地域のコミュニティ・スクールの構成員から、学校から部活動がなくなるのかという不安の声を聞いたため、より一層の啓発が必要であると感じている。
・ある程度形にならないと、情報提供できないという部分があるため、教育委員会だけでなく、市政全体で啓発し、取組を進める必要がある。

〇奈良市の目指す方向性について
〈参加者からの意見〉
・地域クラブにおいては、子どもがある集団に所属したあと、そこから別の集団に移ることができることが理想的である。
・今後の組織づくりに一般市民がどのように関わっていくのかについて、一般市民への周知が必要ではないか。
・組織づくりをする上で、運営団体の中に実施団体があることを確認しておく必要がある。
・運営団体以外からの協力も必要である。
・地域クラブコミュニティが「運営団体」であり、地域クラブセンターが「運営団体統括」となって、事業の窓口となり、事務局とマネージャーが必要になる。
・社会活動となるため、学校だけではなく、市全体としてどうするのかを考えていく必要があり、関係各課が同じ方向に向けて同じ船に乗るイメージで取り組んでいく必要がある。
・現行の部活動指導員の活用が学校としてはイメージしやすく、拡充していくべきではないか。
・総合型クラブづくりの失敗を踏まえ、行政がセクト主義にならずに、同じテーブルで子どもをどのように育てるかを考えていく必要がある。
・行政が自分事として動くと、地域も同様に動くので、行政が一丸となり、課を飛び越えて取組を推進していただきたい。